

平成20年5月の解説（府県天気予報）

【5月の天候状況】

上旬は低気圧が日本付近を数日の周期で通過し、全国的に天気は周期的に変化しました。中旬は旬末に台風第4号を含む深い気圧の谷が通過し東日本の太平洋側では大雨となりました。下旬は低気圧の影響で全国的に曇りや雨の日が多く、東・西日本ではところどころ大雨となりました。

月を通しての日照時間は、北日本と東日本の太平洋側では少なくなりました。降水量は東日本の太平洋側でかなり多く、西日本の太平洋側は多くなりました。月平均気温は東日本と西日本では高くなりました。

【5月の検証結果】

17時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報が87%で例年（注）より3ポイント高く、明後日予報が84%で例年より4ポイント高くなりました。地方毎の適中率では、明日予報は東海・北陸地方から中国・四国地方にかけて5から10ポイント高くなりました。明後日予報も東日本から中国・四国地方にかけて5から10ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、全国的に例年より小さくなり、北日本から中国・四国地方では0.4℃から0.8℃小さくなりました。全国平均は例年より0.4℃小さい1.7℃でした。また、最低気温の予報誤差は、各地方ともほぼ例年並みで、全国平均は例年と同じ1.5℃でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5月の天気予報から】

5月13日は、台風第2号から変わった低気圧が関東地方の南東海上を北東に進んだため（図1）、関東地方では午前中を中心に雨となりました。午後はおおむね曇りで、関東地方は東海上から流れ込む冷たい空気の影響で気温は上がりませんでした（図2）。

5月12日夕方の天気予報では、東京地方の明日13日の天気は「雨 夕方 から 曇」、日中の最高気温（大手町）は15度と発表しました。この値は平年に比べて7度も低い値になりますが、12日の関東地方の天気が北海道の東海上の高気圧から流れ込んだ冷たい空気の影響で雲が多く、最高気温が15度までしか上昇しなかったことから翌日13日も気温は同様に経過し、気温の上昇の可能性は低いと考えました。

13日の実況は、関東地方は雨があがった午後でも東海上からの冷たい空気が入り続け

たため天気は回復せず、曇りのまま経過しました。東京（大手町）では最高気温が予想よりも 1.5 度低い 13.5 度となりました。

この時期は、日中に日が射す天気かどうかで最高気温が大きく変化することがありますが、今回の事例では前日の実況経過を踏まえつつ、天気も的確に予報できたことから翌日の気温予想も気温の低い状況を適切に表現することができました。

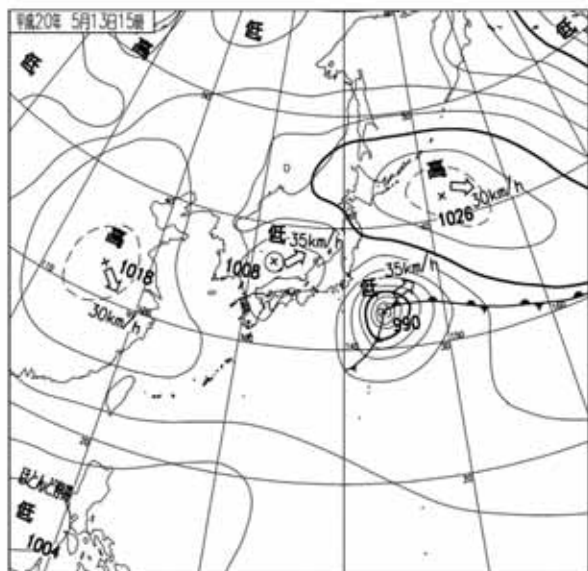


図1 5月13日15時の実況地上天気図

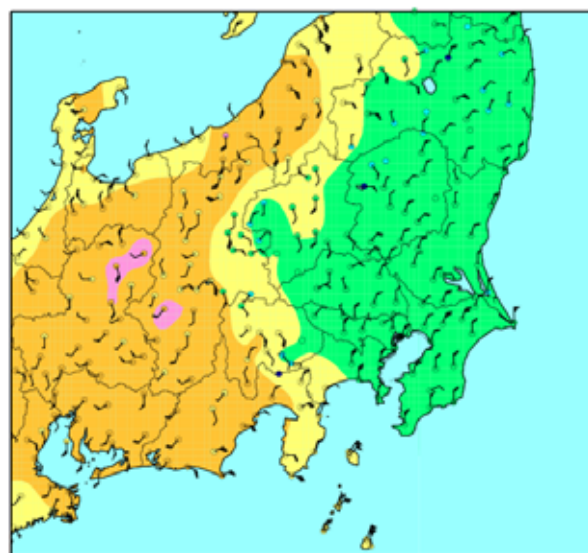


図2 5月13日15時のアメダス気温・風分布図

緑色は気温が15度以下の低い地域。

【7月の天気予報の利用にあたって】

例年、7月の後半になると各地で梅雨が明けて太平洋高気圧に覆われて晴れて暑い日が多くなりますが、梅雨明けまでは梅雨前線の影響で大雨による災害が発生しやすい時期です。この時期には日本海から東北や北陸地方にかけて梅雨前線が停滞して、特に日本海側の地方を中心に大雨になることが多くなります。

梅雨の終わりごろには特に大雨が発生しやすくなります。梅雨の間に雨が降り続いて、地中に水分を多く含んでいる状態で大雨が降ると土砂崩れ、がけ崩れ、洪水などの災害が大きくなる恐れがあります。この時期に天気予報で雨の予報が出されているときには、各地の気象台が発表する気象情報で特に雨の量や雨の強くなる時間帯などに注意して事前の防災対策に活用して下さい。